



2023-2024
国際ロータリーテーマ



世界に希望を生み出そう

Rotary
ゴードン R. マッキナリー



金泉寺

ロータリアン スピリッツ
『Rotarian spirits』

～輝ける新時代へ～

2023-2024 年度 諫早西ロータリークラブ 会長 山本 健志

諫早西RC
ホームページ



Facebook



諫早西RC
掲示板



第1821例会 2024年 5 月 8 日例会記録 NO.35 天候 雨

【本 日】	会員数	51名	出席	41名	欠席	10名	出席扱い (急引)	0名	免除	0名	出席率	80.40%
【4/17】	会員数	51名	出席	42名	欠席	9名	(MU 4名)		免除	0名	出席率	82.36%
【4/24】	会員数	51名	出席	45名	欠席	6名	(MU 5名)		免除	0名	出席率	88.24%

来 訪 者



<ゲスト>

卓話者

氏原 和雄 様

卓話内容 平和へ向けて「救護活動による被爆体験談」

卓話者同伴者

鶴田 みつえ 様 (ご令嬢)

会 長 の 時 間

『君が代』



山本 健志 会長

今日の会長の時間は、月初めの例会時に皆さんが斉唱しています、「君が代」について話をしたいと思います。皆さん、子どもの頃から学校で歌っている国歌「君が代」の歌詞の意味を知っていますか。君が代の歌詞の始まりは、平安時代の頃です。古今和歌集の中に「題知らず、詠み人知らずの歌」として紹介されていました。詠み人知らずとは作者不明または匿名で作られた、シチュエーションも良くわからないことを指します。また、現代の歌詞と歌い出しが少し違います。“君が代は・・・”が“我が君は・・・”でした。古今和歌集ができたのが905年から912年であり、それから約100年後、和漢朗詠集の鎌倉時代に書かれた古写本に、“我が君は・・・”を“君が代は・・・”に変えられており、今と同じ歌詞が記されています。

ています。

いろんな説があり、人伝えで変わってしまったのではないかとされており。歌詞の意味は諸説あり、一般的なものがこの日本の平穏がいつまでも続きますようにというものです。

会 長／山本 健志 幹 事／清水 淳 創立日／昭和60年2月20日 認証日／昭和60年3月5日
例会場／平安閣 諫早サンプリエール(毎週水曜日) 〒854-0053 諫早市小川町71-1 TEL (0957) 24-3907
事務局／諫早商工会議所内 〒854-0016 諫早市高城町5番10号 TEL (0957) 22-3323
会報委員／久保 泰正・木村 真一・サルヴァドーライ美奈子・植杉 親優
HP/<https://isahaya-west.com> E-mail/info@isahaya-west.com

【歌詞の意味】

「君が代」・・・男性と女性が共に支えているこの世は
「千代に八千代に」・・・千年も幾千年もの間（日本の長い歴史を受け継ぎながら）
「さざれ石の」・・・小さな砂がさざれ石のように（一人ひとりの個性を大事に）
「いわおとなりて」・・・やがて大きな盤石となって（協力し合って）
「こけのむすまで」・・・苔が生じるほど長い間栄えていきますように
（この国が末永く繁栄していきますように）

上記の歌詞の意味ですが、時代で「君が代」の「君」のとらえ方があります。

①「君」を「天皇」に置き換え、「天皇が代々続くような平和な日本でありますように」という話もあります。天皇陛下賛美の歌ではないかと解釈する説です。

②「君」を「将軍」に置き換え、江戸時代の将軍家では「将軍の治世が千代に八千代に永遠に続くように」と解釈する説です。

他の国の国歌は、戦争に勝利するそのような歌詞が多く使われています。日本の国歌は、短い歌詞の中に深く心に残る「永遠に平和を願う」思いが込められている素晴らしい歌ですね。

幹 事 報 告

【例会変更】

※雲仙諫早南ロータリークラブより

①日時：令和6年5月 6日(月)
⇒ 5月13日(月) 12:30～

場所：雲仙池の原駐車場

※定款第7条第1節(C)により

※雲仙例会のため

②日時：令和6年5月20日(月)

⇒ 5月27日(月) 12:30～

場所：ホテルフラッグス諫早

※定款第7条第1節(C)により

【お知らせ】

※国際ロータリー日本事務局より

①5月ロータリーレート 1ドル＝157円

②「財団室NEWS 2024年5月号」

③「青少年奉仕月間 リソースのご案内」

※雲仙 諫早南ロータリークラブより

「2024－25年度 国際ロータリー第2740地区

第8グループ ガバナー補佐の紹介について」

2024－25年度ガバナー補佐：

本多 善彦（ほんだ よしひこ）様

合資会社 本多屋 代表

※ガバナー事務所より

①「2023-2024年度RYLA（ロータリー青少年指導者

養成プログラム）開催の御案内」

日 時：令和6年6月8日(土) 13:00開会～

9日(日) 12:00閉会

場 所：国立諫早青少年自然の家

（諫早市白木峰町 1109-1）

登録料：8,000円（食費及び宿泊費）

締 切：5月23日(木)

②「新入会員へのWEBディスカッション開催募集依頼」

日時：令和6年5月15日(水) 19:00～

③「ガバナー月信6月号掲載のためのご退任挨拶文ご提供
のお願い」（久保委員長宛）

挨拶文：800文字以内

締 切：5月16日(木)

※第2740地区ローターアクトより（西クラブ宛・原田
委員宛）

「国際ロータリー第2740地区ローターアクト

第41回地区年次大会本登録のご案内」

日時：令和6年6月1日(土) 14:00開会

場所：エスプラッソホール

（佐賀市白山2丁目7-1 エスプラッツ3F）

締切：5月10日(金)

※島原ロータリークラブより

「島原ロータリークラブ創立60周年記念式典 ご出席の
御礼」

※一般財団法人 比国育英会バギオ基金より

「バギオだより 2024年5月号 Vol.102」

※国際ソロプチミスト諫早より

「国際ソロプチミスト諫早 認証40周年記念講演会のご案内」

日 時：令和6年8月10日(土)

開場 14:00

開演 15:00～16:30

場 所：ホテルグランドパレス諫早

入場料：3,000 円

【5月誕生日祝】



中島恵美子 さん 昭和 54 年 5 月 15 日

高瀬 善久 君 昭和 39 年 5 月 17 日

久保 泰正 君 昭和 25 年 5 月 20 日

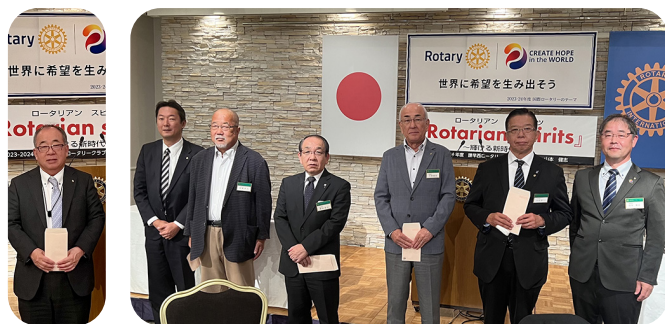
古賀 秀次 君 昭和 35 年 5 月 31 日

※株式会社十八親和銀行より

「紙帳票ならびに記憶媒体を利用した「口座振替」のサービスをご契約のお客様へのお知らせ」

サービス廃止：令和7年9月30日（受付分まで）

【5月結婚記念日祝】



高瀬 善久 君 平成 24 年 5 月 5 日

平野 義信 君 昭和 53 年 5 月 7 日

御厨 善光 君 昭和 58 年 5 月 15 日

永井 栄次 君 昭和 56 年 5 月 17 日

木村 真一 君 平成 4 年 5 月 31 日

😊 スマイルボックス 😊

山本 健志君：今日は、氏原様ようこそ諫早西 RC 例会へ。ありがとうございます。卓話楽しみにしております。

清水 淳君：氏原和雄様、鶴田みつえ様、ようこそ諫早西 RC へ。本日の卓話宜しくお願い致します。

高瀬 善久君：先日からのお見舞いありがとうございます。誕生日祝・結婚記念日祝もありありがとうございました。

平野 義信君：結婚記念日祝ありがとうございます。

古賀 秀次君：誕生日祝ありがとうございます。健康に気をつけます。

吉次 良治君：氏原様、鶴田様、ようこそ諫早西 RC へ。御来訪頂きありがとうございます。氏原様には日頃より大変お世話になってます。氏原さんは凄い方です。

吉田健一郎君：氏原和雄様、ご多忙の中、卓話をお引き受け頂き、ありがとうございます。本日は宜しくお願いします。

久保 泰正君：誕生日祝ありがとうございます。74 歳になりました。先輩には中々追いつけません。

中島恵美子さん：誕生日祝ありがとうございます。今年もニコニコ生活できるようにニコニコします。

御厨 善光君：結婚記念日、完全に忘れてました。失礼致しました。

永井 栄次君：結婚記念日祝ありがとうございます。

木村 隆二君：仕事の都合で早退させていただきます。

本日の合計 (5/8)	累 計 額
¥45,000	¥1,242,000

【 部 外 卓 話 】

卓話者 氏原 和雄 様

卓話内容 平和へ向けて「救護活動による被爆体験談他」

原爆が投下された時、私は15歳で中学3年生でした。当時は、戦時中で若い男の人は、20歳になると、徴兵検査を受けて、元気な人はみんな兵隊に召集され、日本の内地で働く男の人は、お年寄りと女性の人でした。働く人が不足して、私達学生も、学徒動員として諫早駅で働いていました。私達の仕事内容は、屋外で貨物列車の入替をする仕事でした。諫早駅は、長崎本線と大村線、島原線の起点となっており、それぞれの駅に貨車を仕分けして、入替を行う作業でした。貨物列車の車両は、20両～30両位連なって運行し、主に戦争に必要な武器、弾薬、兵隊さんの食糧等を運んでおりました。昭和20年8月9日、原爆が投下された日は、蒸し暑い晴天の日でした。11時2分、「ピカッ」と物凄い光で、目の前がボーッととなり、しばらくして物凄い爆音が響き、瞬間何事が起きたのかと思いました。今までで体験した事のない異様な雰囲気にも包まれました。すると間もなくして、西の方角、長崎の上空が、きのこ雲と黒煙で薄暗くなって来ました。



氏原 和雄 様

仕事をしている仲間達が、「これは大変だ。8月6日に落とされたのと同じ新型爆弾が長崎にも落ちた様だ。」と大騒ぎになりました。駅の本部から報道、指示がなされ、浦上、長崎方面は“原子爆弾”が落ちて全滅状態になっており、列車は、道の尾駅より先は、運行出来ないので、急遽、列車ダイヤの変更を行い、負傷者がたくさん出ているので、救護する為の救援列車に切り替えて、途中運行するので、負傷者の救護を手伝う様、指示を受けました。

私達駅関係者は、救援列車から駅のホームに負傷者を降ろす作業を手伝う様指示され、他にも色々な団体の人達が駅に集まって来ました。この方々は、駅のホームからそれぞれの救護施設、病院、学校、公民館等いろいろな所を臨時救護施設として収容する作業を分担して、行動されました。それぞれ、リヤカーとか、担架、戸板等を準備して待機しました。救援列車が駅のホームに到着し、負傷者の姿を見た瞬間、私達は、驚きと恐怖で目を疑いました。言葉に表現出来ない程の凄い火傷でした。衣類は、夏物の薄着であり、殆どの方が焼け裂かれて上半身の衣類は、ない状態でした。全身火傷で、水膨れと皮膚が剥け落ちている人、男女の区別とか年齢の区別等も判断出来ない位の重傷の方もおられました。又、車内からは呻き声と「水を！水を！」「痛い！痛い！」との声が交差し、まさしく生き地獄だと思いました。

私は、一刻も早く応急手当をしてあげる事が大切であると思い、一生懸命列車からホームに運びました。負傷者の方は、毛布とかゴザ、衣類等を敷いて寝かせてありましたので、二名一組で敷物の四隅を持って運び出しました。とても、体に触られる状態ではありませんでした。体に触ると皮膚がむけて手にくっつく状態でした。

私達の列車には自力で行動出来る方はなく、なかにはすでに車内で息を引き取られた方がおられ、ホームに運び出してから亡くなられた方もおられました。この様な救護活動は、休憩する暇もなく、夜中まで続き、負傷者が一刻も早く手当が受けられる様、夢中で救護活動を致しました。列車から降ろして、次の救護列車が来るまでの間は、私達も近くの施設まで搬送致しました。負傷者が何百名位であったかは、予測想像は出来ませんでしたが相当な数であったと思います。

この様な救護活動は、9日、10日と続き、諫早駅周辺だけでは収容する事は出来ずに、次の東諫早駅とか長田駅、大村駅方面まで、搬送された様でした。私は、この状況をみて、原爆のむごさを改めて感じました。

戦争末期になると、B29大型爆撃機が長崎、諫早、大村、佐世保、大牟田の主な軍事工場を昼夜を問わず空襲爆撃する様になり、私達の上空をB29爆撃機が頻繁に飛来し、3機づつ編隊を組み、6機あるいは9機、多い時には15機位で西の方から東の方に飛んで来る様になり、諫早の高台から高射砲がB29爆撃機に向かって発砲するも、飛んでいる高度までは届く事は出来ず、途中で炸裂するのが肉眼で良く見え残念に思いました。

日本の飛行機は、殆ど応戦に来る事はなく、日本には飛行機はいないのかと思いました。昭和19年11月21日に、坂本少佐が戦闘機で大村空港を離陸すると、大村の軍事工場を爆撃して東の方向へ飛行中のB29爆撃機の編隊を、高来町の上空で発見し、直ちに追跡し銃撃するもその成果は見られませんでした。意を決し自ら体当たりし、見事B29に命中、坂本少佐の乗った戦闘機はバラバラに砕け散り多良岳の麓、深海村の榎堂上の山林に落下しました。体当たりを受けたB29爆撃機は、編隊から徐々に遅れ、グラグラしながら水平飛行で高度を下げ、小長井町の有明海の沖に墜落し、尾翼が海面から見えていました。

私は、友達とB29爆撃機が落ちたのを見に行こうと小長井町まで行きました。小長井町の漁船が確認に行った時、搭乗員は全員機内で死亡していたそうです。その後、機長他10名の名前を記して小長井小学校の近くの海岸の高台に鎮魂碑が建立されました。一方、体当たりした坂本少佐の遺体が発見された山中のその場所に、慰霊塔が建立されています。

昼夜を問わず頻繁にこんな爆撃が続く様では、日本は全滅するのではないかと思います。そして遂に、昭和20年8月15日、終戦を迎えました。戦争のない平和な世界を心より願います。